

1 研究主題について

自ら学び共に高め合う子の育成

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善

～教員自身の個別最適な学びと協働的な学びを通して～

2 授業改善の取組

教員自身の個別最適な学びと協働的な学び

「主体的・対話的で深い学び」を通して児童の学力を向上させるため、全ての教員が授業力向上に努めています。今年度は、個人で設定した課題をもとに授業改善に努めるとともに、グループでもお互いの実践について意見し合う、「グループ別授業研究会」を実施しています。

児童が身に付けるべき資質・能力の獲得

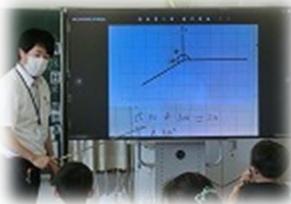
学びに向かう力・人間性等

知識・技能

思考力・判断力・表現力

学習過程の質的改善 「主体的・対話的で深い学び」の実現

教員の授業力向上



・一人ひとりの教員が、年間の研究課題を設定し、日々の授業改善に努め、校内で授業公開することで、自身の専門性を高める。

新たな
課題発見

研究授業
研究協議

個人の専門性
を組織で活用

個別最適な学び

教員

協働的な学び

教員各自の
興味・関心
課題意識

日々の
授業実践

個人の
専門性の
向上



・個人の研究課題の傾向をもとにグループ化し、お互いの実践への助言、問題解決、情報交換などを行い、教員同士の学び合いを促進していく。

3 目指す児童像、仮説

【自ら学ぶ児童像】 目標をもって粘り強く学習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用することができる子

仮説1	教科の系統性を意識し、「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を徹底した授業を展開していけば、自ら学ぶ児童を育成することができるだろう。
仮説2	基礎的・基本的な知識・技能の定着のための児童自身の課題に応じた「反復学習」を継続的に行えば、自ら学ぶ児童を育成することができるだろう。

【共に高め合う児童像】 人の話をしっかりと聞き、自分の考えをはっきりと伝えることができる子

仮説1	学習の約束が徹底され、自他を認め合えるような「学級経営」を行っていけば、共に高め合う児童を育成することができるだろう。
仮説2	目的や意図などを正しく理解し、相手に分かりやすく伝えることができるような「言語活動の充実を図れば」、共に高め合う児童を育成することができるだろう。

4 児童の学力向上に向けた、稲荷小の指導指針「いなりスタンダード」

学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、全学年で「整理整頓」「話の聞き方」の指導を行う。 ・児童の「自己肯定感」を高める学級経営(承認される機会創出、教師の認め励ます指導)を行う。
授業改善 言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を生かした授業作りを行う。 ・あいさつ、板書、ノート指導、ふりかえり(いなり+一言)など、共通での取組。 ・「個人で考える→ペア・グループで伝え合う→全体で共有する」学習形態の日常化を図る。
反復学習	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた算数マラソンの実施と、児童への意欲付けを行う。 ・年間3回の家庭学習強化週間の実施。 ・4～6年生向け家庭学習パワーアッププリントの実施。 ・デジタルドリルの導入。

5 今年度の研修方針

学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の課題「鉛筆の持ち方」の重点指導。 ・傾聴の姿勢、カウンセリングスキルに関する研修。 ・学年や学級における「児童同士が互いに認め合える」具体的な取組の共有。
授業改善 言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教師一人一人の授業力向上。 →教師の個人の興味・関心、課題意識に基づいた授業研究「グループ別授業研究会」の実施
反復学習	<ul style="list-style-type: none"> ・研修推進委員会を中心にした取組の日常化と必要に応じた改善。

鉛筆の持ち方の指導



カウンセリングスキル研修

